




社会福祉

管理監督者 
担当課長～
 25年目以降
 (40代後半～)

グループリーダー 
主任主査級
 (上席児童福祉司 等)
 20～25年目程度
 (40代中盤～)

サブリーダー 
主査級
 (主査児童福祉司 等)
 15～20年目程度
 (30代後半～)

中堅 
主任級
 (主任児童福祉司 等)
 10～15年目程度
 (30代中盤～)

若手 
主事級
 2～10年目程度
 (20～30代前半)

新人 
新採用
 1年目

主な職名：社会福祉主事、児童福祉司、児童指導員、児童自立支援専門員 等

主な配置先：広域振興局保健福祉環境部（保健福祉環境センター）、児童相談所（福祉総合相談センター含む）、杜陵学園、本庁（保健福祉部等） 等
 ※ 県立病院の医療社会事業士として配属される場合もあります。

県職員としての土台づくり。
 知識経験をしっかり吸収。

様々な分野を経験。実務
 の中核として活躍。

視野を広げながら担当業務
 を推進。後輩もフォロー。

幅広い視野で業務を推進。
 チームの要として活躍。

チームを引っ張り、県
 の政策・施策を立案。

豊富な知識・経験で
 組織をマネジメント。

- ・関係法令や制度に係る基本的な理解と運用を行う力
- ・相談援助の基本姿勢、正しい視点、支援対象者と向き合う力
- ・適切な調査・アセスメントによる援助方針を策定する力
- ・援助方針に基づき、主体的に考え、判断し、行動しようとする力

- ・法制度や関係機関を熟知し、複雑困難なケースに対し、組織内外と連携できる対応力
- ・市町村等の関係機関に対し、適切な助言、指導できる力
- ・個別課題から地域課題を把握し、解決につなげる力
- ・事業の企画運営力

- ・スペシャリストとしての部下職員へのスーパーバイズ
- ・専門分野における講師要請への対応力
- ・部内の関連分野（精神保健、地域保健、医療等）の取組を理解し、円滑な連携が図れる力
- ・タイムマネジメントや業務効率化等の実践力

- ・複雑困難な事例のスーパーバイズを的確に行う力
- ・主査級S Vの育成力
- ・市町村等の関係機関に対する積極的な指導力
- ・プレイヤーと管理職に求められるマインドやスキルの違いを理解し、実践しようとする力

- ・管理監督職として所属職員や事務事業をマネジメントする能力
- ・これまでに培ってきた専門分野の知識・経験等を踏まえた高度な能力（説明・交渉・調整力、判断力、指導力、分析力）の発揮
- ・人材育成能力

若手職員の配置
 概ね採用10年目までは対人援助業務中心。複数分野の経験により専門性を高めながら、主査以降は対人援助業務のスペシャリストと政策形成を担うゼネラリストに分けて育成を深化。

保健福祉部会計事務研修会

社会福祉主事

- 福祉行政職員初任者研修
- 生活保護新任職員研修

【外部】生活保護担当ワーカー全国研修

【外部】新任査察指導員研修

【外部】全国生活保護査察指導に関する研究協議会参加

【外部】生活保護自立支援推進研修

児童福祉司等

- 福祉行政職員初任者研修
- 児童福祉司任用前、任用後研修

【外部】東北・北海道ブロック児童心理司研究協議会参加 等

児童福祉司研修ワークショップ

【外部】児童相談所職員合同研修

指導教育担当児童福祉司任用前研修

指導教育担当児童福祉司任用後研修

指導的職員を育成する立場にある指導的職員への研修

【外部】児童相談所長研修

【外部】研修指導者養成研修

育成方針：職場を離れて受講する研修（off-JT）に加え、日常の仕事を通じた上司・先輩からの指導（oJT）や自主的な学習・研鑽（自己啓発）を組み合わせる育成

注1：各職位の目安（○年目）は大卒程度を想定したものです。

注2：研修のうち太い枠線のあるもの（着色されているもの）は必修研修であることを表しています。

キャリア

必要な知識・能力・役割

職員育成（主な研修）